

# 図書館だより

1994. 7. 5

第 16 卷 2 号

通巻 130 号

Bulletin of the Hokkai Gakuen University Library

## 「心の旅路」の四季 夏山の季節

柴田 義人

夏山の季節になると、学生時代に山歩きを始めた私は、初めは無性に山に行きたくなくなったものだった。やがて春・秋・冬と行動スケジュールを拡げていったが、逆に今は元に戻ってしまって、夏山の季節が懐かしい。

山に登った経験があるならば、必ず山小屋の思い出があるに違いない。北海学園大学には「双子の山小屋」ともいふべき、冷水小屋と中山小屋がある。1952年(昭和27年)に北電が送電線建設の記念事業として建設した、ログハウス風の小屋である。1960年(昭和35年)、当時山岳部長であり北海岳友会顧問でもあった高岡周夫教授(現在名誉教授)のご尽力と当時の豊平町町議員牧野重太氏(現在北海学園評議員会議長)のご協力によって、豊平町から寄贈された。今年の5月、朝日新聞に「さっぽろ山小屋物語」が連載され、「冷水・中山小屋」(5月8日朝刊)は、「大学のゼミ活動に利用」という見出しで、「山文化」への貢献が特記されている。

一昨年の秋、中山小屋の小屋納めが、北海岳友会(顧問丸山治教授)の創立35周年を記念して行われ、私も久し振りに岳友と再会し夜を徹して歓談した。昨年10月10日、冷水小屋の管理40周年を記念する小屋祭りが開かれ、私も参加し札幌岳にも登ることができた。この3月の卒業式において、山小屋管理に当たった山岳部(部長高橋伸幸教授)・ワンダーフォーゲル部(部長佐藤謙教授)・北海岳友会が団体表彰を受けた。

ところで最近、本学山岳部の平成5年度報告書を読む機会があった。山行記録に続いて「手記」が寄せられていて、後藤泰宏君(山岳部主任幹事・現在経済学部4年)が、「山旅の記憶」と題して、

「埋れていた山の記憶が山小屋において止めどなく沸き上がる」体験を語っている。そして「そのような不思議な山の記憶に感涙にむせんだ夜を忘れられないでいると、しばらくして、そのことを的確に表現している何とも有難い文章に接することができた。」として、私の文章(『こまくさ』第3号・昭和37年の文章を'92年『図書館だより』に再び寄せたもの)を挙げている。

実は私にも「有難い文章」がある。私の叔母が、1957年(昭和32年)北海日日新聞(9月22日)に寄稿した、女性日記「鈴」である。37年前私が大雪山縦走の帰り、当時旭川工業高校教諭であった叔父の家にお世話になった時の思い出を綴った文章で、次のように結ばれている。

「おのおの生きて行く道はその人一人だけの道である。殊に学問の道は遠く険しく、きびしい孤独の連続であろう。いとしいわが子といえど父も母もついては行けぬ。彼の年老いた母は、山へ憧れる一人息子のこのピッケルに何を思いつつ銀の小鈴を結んだのであろう——。ひざまずいて結んだであろう、この小鈴を私はもう一度、秋風の中にふって見るばかりだった。」

私の母は、一昨年3月19日亡くなった。叔母は昨年12月、飛世美代子句集『行雲』を上梓された。この文章は私にとっては、ますます「有難い文章」になっている。

(1994.6.2)

(しばた よしと 経済学部教授)



(中山小屋)



(冷水小屋)

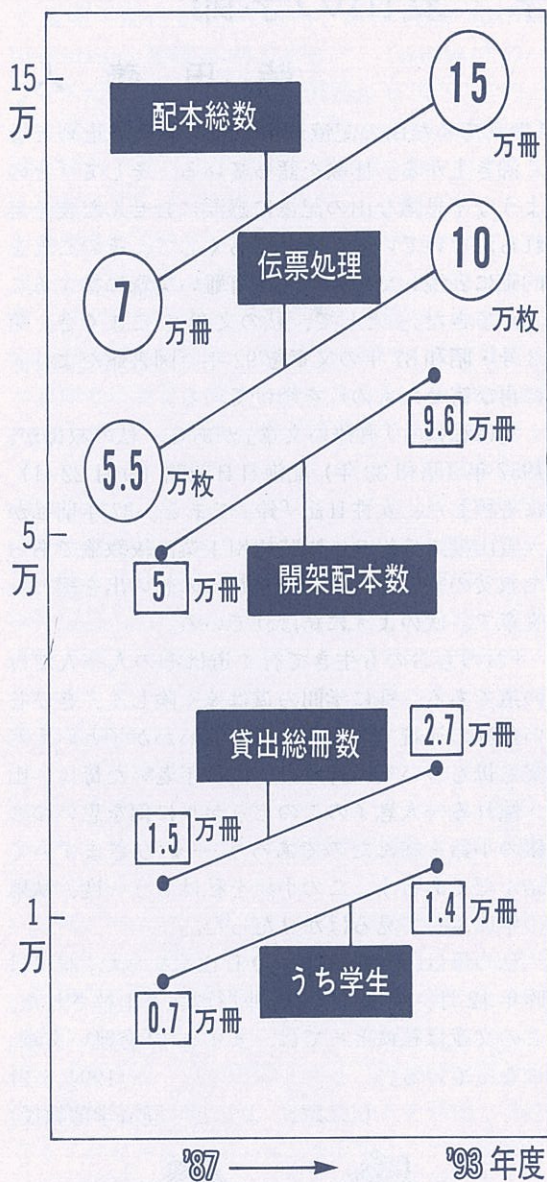


# 夜明けのゴルフ

'93年度

スコアカード

## —— 飛距離伸びて芝刈り大変 ——



配本数 **15**万冊

**10**万枚 伝票処理

新館オープン、今年で8年目。

入館者は150万に近いこのごろ。

'93年度の動きを過去7年のスケールでスコアカードにまとめてみると。

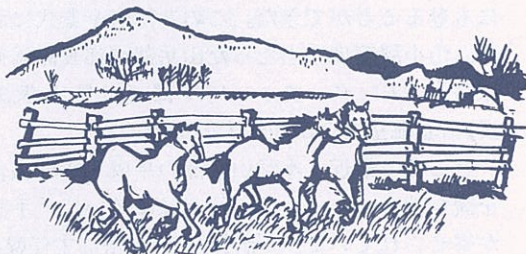
飛距離は2倍に伸びたが、反面、芝の手入れも相当なもの。

貸出冊数の伸びは、そのまま、手作業の伝票処理や配本数への増となつてはねかえる。

貸出—返本の出し入れの数は10万枚。配本数は15万冊。このうち開架利用は伝票処理とほぼ同数の10万冊。

図書館は知求のフィールド。ある時はボギー、ある時はバーディと自分のペースでゲームが出来る。

夜明けのゴルフも又楽し。



(数字は本館分)



# 蔵書冊数の推移

平成6年3月31日現在の蔵書冊数

総計表 (1)+(2)

	和 書	洋 書	合 計
冊 数	379,643 冊	130,135 冊	509,778 冊
和・洋書比率	74.5%	25.5%	100%

(1) 年度別受入図書の数表 (過去10年間の推移)

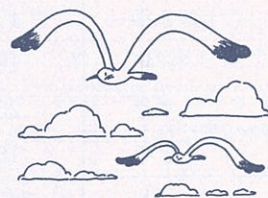
年 度	和 書 (冊)	洋 書 (冊)	合 計 (冊)	昭和59年度を 100%としての 伸び率 (%)
昭和24年～58年	171,733	67,195	238,928	
59年	11,640	3,860	15,500	100.0
60年	13,360	6,560	19,920	128.5
61年	17,841	6,762	24,603	158.7
62年	15,799	5,198	20,997	135.5
63年	19,640	5,400	25,040	161.5
平成元年	20,820	4,500	25,320	163.3
2年	17,680	4,600	22,280	143.7
3年	18,428	6,519	24,947	160.9
4年	23,100	8,540	31,640	204.1
5年	16,796	5,237	22,033	142.1
合 計	346,837	124,371	471,208	

(2) 文庫等の蔵書数

文庫名	北駕文庫	戸津文庫	上原文庫	小林文庫	卒業論文	修士論文	合 計
和 書	31,113	891	2,765	2,197	308	57	37,331
洋 書	—	58	606	575	—	—	1,239
合 計	31,113	949	3,371	2,772	308	57	38,570



- イタリア・イデオロギー N. ポッピオ著 1993
- 国際経済法 丹宗暁信 [ほか] 編 新版 1993
- 経済学概論 吉原竜介著 1993
- 経済の原理 第3・4・5編 J. スチュアート著 1993
- ケインズの講義 1932-35年 代表的学生のノート  
トーマス・K. ライズ著 1993
- 規制と競争の経済学 清野一治著 1993
- 現代日本経済史 森武麿 [ほか] 著 1993
- 21世紀型経済システム 創造・選択・共存 通商産業省産業政策局編 1993
- 日本型政策の誤算 経済摩擦解消のために 山本繁緯著 1993
- 世界システムの政治経済学 国際関係の新段階 ロバート・ギルピン著 1990
- 日欧：競争と協調の新時代 J.-L. ムキエリ編著 1993
- 新時代の経営学 藤芳誠一編著 1993
- 企業経営総論 井上宏 [ほか] 編著 1992
- 地球社会の経営学 篠原三郎編著 1991
- 日本の企業システム リーディングス第1巻 企業とは何か 伊丹敬之 [ほか] 編 1993
- 地球市場時代の企業戦略 トランスナショナル・マネジメントの構築 C.A. パートレット著 1990
- 管理会計論の基調 浅羽二郎著 1991
- 企業のリスクマネジメント イザという時のための法律知識全図解 名越秀夫著 1993
- 経営情報科学総論 涌田宏昭編著 1992
- リストラクチャリングと組織文化 加護野忠男 [ほか編] 1993
- スケール・アンド・スコープ 経営力発展の国際比較 アルフレッド・D. チャンドラーJr. 著 1993
- 英国のM&A 村松司叙著 1993
- 経営効率性の測定と改善 包絡分析法DEAによる 刀根薫著 1993
- 貸借対照表能力論 資産および負債の定義と認識 土方久編著 1993
- モーゲージ担保証券 基本構造と決済実務の解説 ファースト・プリンシパル社編 1993
- 金融政策の経済学 「日銀理論」の検証 岩田規久男著 1993
- 結社の時代 19世紀アメリカの秘密儀礼 マーク・C. カーンズ著 1993
- 経営組織と人間の研究 佐藤一昭著 1993
- 会計学基礎講義 宇南山英夫編著 1993
- 日本監査研究学会研究シリーズ1 情報システム監査の課題と展開 日本監査研究学会編 1988
- ロシア・CIS 経済の真実 最新データが語る これまで何があったか/これからどうなるか G. ヤプリンスキー編著 1992



## 気楽に読もう

### 「アップルパイの午後」

(ちくま日本文学全集 020 より)

尾崎翠著

尾崎翠、という作家の名前を聞くのは初めて、という人がほとんどでしょう。彼女は、大正から昭和初期にかけての創作活動の後、晩年に再び注目されるまで約30年間も忘れ去られていたという、作家としては薄幸な人物です。しかし作品はどれもみな不思議な感覚と余韻の漂う、なんとも言い難い面白さのあるものばかりです。私が彼女の作

品と出逢ったのは3年前ですが、以来その不思議な魅力にとりつかれて離れられません。

その私の大好きな作品が、「アップルパイの午後」です。登場人物は、兄、妹、兄の友人松下、名前だけ出てくる松下の妹雪子の4人だけです。兄と雪子、妹と松下は恋人同士ですが、兄は妹と松下の仲を知りません。兄が雪子との婚約で頭がいっぱいになっている間に、松下は妹の「お口を拝借」(何のことか判りますよね?) してしまう……ほら、読みたくなってきただしょう。脚本形式の短篇なので、すぐに読めます。尾崎翠の世界を歩き回っているうちに、大好きな人の「お口を拝借」したい気分になるかも知れませんよ。(C.O)



- 比較政治 3 東アジアと日本 升味準之輔著 1993  
 (逐条) 地方自治法 長野士郎著 第11次改訂新版 1993  
 法律用語対訳集 フランス語編 法務省刑事局外国法令研究会編 1993  
 ヘーゲルの「法」哲学 加藤尚武著 1993  
 法の近代とポストモダン 海老原明夫編 1993  
 比較憲法論 L. ウルフ=フィリップス著 1993  
 日本国憲法講義資料 豊島修著 改訂版 1993  
 裁判を受ける権利 松井茂記者 1993  
 現代行政の行為形式論 大橋洋一著 1993  
 紛争の行政解決手法 南博方著 1993  
 現代民法講義 6 不法行為法(事務管理・不当利得) 中井美雄編 1993  
 民法の常識 石田喜久夫著 1993  
 消滅時効法の原理と歴史的課題 内池慶四郎著 1993  
 債権管理 ケーススタディ 荒木新五[ほか]著 1993  
 債権法講話 山川一陽著 新版 1993  
 欠陥商品訴訟と製造物責任 製造物責任立法を展望して 平野克明著 1993  
 借地借家 借りる人にも貸す人にも 宮川博史著 1993  
 商法演習 2 手形法・小切手 奥島孝康編 1993  
 会社法 現代法学 森本滋著 1993  
 手形法小切手法講義 藤原雄三著 1993  
 手形法・小切手法 蓮井良憲編 1993  
 論点白書 民法 早稲田司法試験セミナー編 1993  
 論点白書 刑法 早稲田司法試験セミナー編 1993  
 通説刑法各論 川端博著 1993  
 刑事政策大綱 森下忠著 新版 1993  
 刑事政策 基礎演習 大谷実著 1993  
 日本行刑の展開 森下忠[ほか]編 1993  
 破防法を裁く 沖縄闘争破防法裁判二〇年の記録 浅田光輝著 1993  
 違法性と正当性 原則と事例 アルビン・エーザー原著 1993  
 私的独占禁止法の研究 6 今村成和著 1993  
 論点白書 民事訴訟法 早稲田司法試験セミナー編 1993  
 論点白書 刑事訴訟法 早稲田司法試験セミナー編 1993  
 国際紛争の平和的解決 J.G. メリルス著 新版 1993  
 国際私法講義 溜池良夫著 1993  
 不動産証券化の法的基礎 田村幸太郎著 1994  
 日本の政策決定過程 対外援助と外圧 ロバート・M. オア一, Jr. 著 1993  
 現代税法講義 北野弘久編 改訂版 1991  
 税法 清永敬次著 新版(全訂) 1990  
 法人税法精説 平成4年版 武田隆二著 1992  
 消費者行政と法 清水誠[ほか]編著 1993



気楽に読もう

「マリカの永い夜／バリ夢日記」

吉本ばなな

原マスミ氏のカバーイラストが印象的な本書をきっと皆さんも書店で目にした事があるのではないのでしょうか。「マリカの永い夜」は数年前から日本からの観光客も増え、小説などにも度々登場する「バリ島」を舞台に展開する吉本ばななワールドです。マリカという多重人格者とその病状の回復の中で描かれる心の葛藤は普通の人間の日常にも多かれ少なかれ存在しているものだと感じま

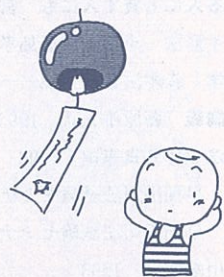
す。もう一編の「バリ夢日記」は、物売りの迫力とヤモリに負けない自信のある方は、ぜひ訪れてみたくなるバリのガイドです。猿の森、バラセiling、エステ、クヤン・クリという影絵、ケチャック・レゴン・バロンなどのダンスなど様々な楽しみと、「決して働き者ではないが、歴史と信仰と環境と素朴さがおりあった1点では手間を惜しまない」バリの人々のサービス。今年も冷夏という予想でしたが、本の中だけでも熱い空気を味わってみませんか。

(M.F)



パレスチナ合意 背景、そしてこれから 芝生瑞和著 1993  
 心・脳・科学 ジョン・サール著 1993  
 ルネサンスの魔術思想 フィチーノからカンパネッラへ D.P.ウォーカー著 1993  
 定言命法 カント倫理学研究 H.J.ペイトン [著] 1986  
 マーフィーの法則 現代アメリカの知性 アーサー・ブロック著 1993  
 人間の歴史を考える 岩波市民大学 5 結婚と家族 布施晶子著 1993  
 近代世界を剥ぐ 広松涉著 1993  
 ニュー・クリティシズムから脱構築へ アメリカにおける構造主義とポスト構造主義の受容 アート・バーマン著 1993  
 カナダの地域と民族 歴史のアプローチ ダグラス・フランシス編著 1993  
 日本の創造力—近代・現代を開花させた470人— 村松貞次郎 [ほか] 編 1993  
 韓国 読んで旅する世界の歴史と文化 新潮社 1993  
 聖書の国の日常生活 カラー版 1魚 アグムの青春と魚池田裕文 横山匡写真 1993  
 東欧を知る事典 平凡社 1993  
 フランス 読んで旅する世界の歴史と文化 1993  
 環境の倫理 上 シュレーダー=フレッチェット編 1993  
 国際教育交流実務講座 全12巻 鋤柄光明編 1993 1. 日本の国際教育交流 2. 大学の国際化戦略 3. 大学の国際交流センター 4. 日本語教育と内なる国際化 5.

高校の国際化戦略 6. 高校留学のとらえ方 7. アメリカ大学日本校 8. 海外進出と学校経営 9. 国別教育制度 10. 提携プログラムリスト 11. 自治体と民間の国際教育交流 12. 国際教育交流データファイル  
 教えるということ 大村はま著 1985  
 テクニカル・ライティング 話し言葉で書く科学英語 Matt Young 著 1993  
 ゼロの記号論 無が意味するもの ブライアン・ロトマン [著] 1991  
 アインシュタインの相対性理論は間違っていた 窪田登司 著 1993  
 原子と分子 化学結合の基本的理解のために B.C. Webster 著 1993  
 気象と環境の科学 天気予報の科学からエル・ニーニョまで 山崎道夫編 1993  
 ホロコーストの科学 ナチの精神科医たち ベンノ・ミュラー=ヒル著 1993  
 環境にやさしい新エネルギーの開発 太陽・風力・水素 太田時男編 1993



気楽に読もう

『謎とき「罪と罰」』

江川卓著 (新潮社・新潮文庫)

いままでに ロシア文学は 登場人物の名前が長い、小説自体が長い、登場人物が多い等の理由から、他の国の小説に比べて ちょっと読みにくいと思ったことはありませんか？

そんな 食わず嫌いな貴方、ちょっとかじって挫折した貴方。是非 この本を読んでください。

もし、ロシア語を日本語と同じくらい理解できるならば作者の その人物や物事に対する意図

(の一部)がわかることでしょう。が、なかなかそこまで語学力はついてくれません。

本書は「明るく楽しいドストエフスキー」をモットーに、今までにない切り口でドストエフスキーの『罪と罰』を読ませてくれます。この小説の中に仕掛けられた洒落、笑い、語呂合わせ、言葉の多義性の遊び、パロディ精神等々を まるで推理小説を読むように種明かしてくれるのです。まるでメイキングビデオを見るようですよ。

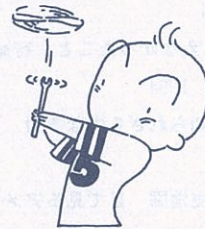
貴方も一緒に舞台裏をのぞいてみませんか？

(M.Y)



流体力学 日野幹雄著 1992  
 地球を観測する 笹野泰弘編 1993  
 地球環境とは何か 坂田俊文編著 1993  
 振動工学 ポイントを学ぶ 鈴木浩平編 1993  
 新材料力学 上 山田嘉昭編著 1993  
 語呂で覚える構造力学 奥津敏著 1992  
 ファジィ理論の土木工学への応用 古田均[ほか]著 1992  
 土木工学概論 土木とは何か 高橋裕 [ほか] 著 第2版 1993  
 新土木実験指導書 土質編 木村孟編 1993  
 JV 工事の会計と原価管理 太田昭和監査法人建設業会計研究グループ [著] 1992  
 土木解析学演習 加納正道著 1993  
 液状化対策の調査・設計から施工まで 液状化対策の調査・設計から施工まで編集委員会編 1993  
 杭基礎の調査・設計から施工まで 杭基礎の調査・設計から施工まで改訂編集委員会編 第2回改訂版 1993  
 岩の力学的性質 岩石・岩盤技術者のためのハンドブック 試験に関する技術と結果 2 R.D. Lama 著 1992  
 土留擁壁・石積の設計と解説 高倉正人 [ほか] 共著 1993  
 土質実験法 高専土質実験教育研究会編 1985  
 コンクリート工学 耐久性・寒中コンクリート詳説 林正道著 1993  
 コンクリート技術100講 村田二郎著 改訂新版 1993  
 鉄筋コンクリート工学 岡村甫執筆 1993  
 絵とき測量 包国勝 [ほか] 共著 1993  
 地盤工学 海野隆哉編著 1993

EPS 工法 発泡スチロール (EPS) を用いた超軽量盛土工法 発泡スチロール土工法開発機構編著 1993  
 ウェルポイント工法便覧 日本ウェルポイント協会編 改訂版 1993  
 トラブルを防ぐ杭基礎工法のノウハウ 研修用テキスト 三橋晃司他著 1993  
 杭基礎の設計・施工ノウハウ 疑問に答える 岡原美知夫他著 1993  
 道路工学 石井一郎著 1993  
 都市再開発ハンドブック 平成5年度版 1993  
 上水道工学 川北和徳 [ほか] 著 第2版 1993  
 Home ground 星野厚雄著 1994  
 パブリック・アート都市 スペイン、フランス、ドイツ篇 樋口正一郎著 1994  
 卒業生白書 二八三七人からのメッセージ 日本女子大学住居学科同窓会住居の会編著 1994  
 シリアル伝送完全マスタ RS-232-C から RS-422/423 までの詳細 稲垣完治著 1988  
 超高速光スイッチング技術 神谷武志編 1993



## 気楽に読もう

### 「在日日本人」

宮本政於

さて、同作者の「お役所の掟」は、読んだことがあるだろうか？ これは彼がアメリカから帰国し、公務員として厚生省に勤めだしてから知った、日本の官僚組織務態はこんな風だ、といった内容の本である。こちらは大変面白いので、ぜひ一読をおすすめする。しかし、今回紹介するのは彼の著作第二弾「在日日本人」である。アメリカで精神科医をしていた彼は、先に述べたように日本の

お役所に勤める事となったのだが、もう逆カルチャーショック。日本社会は残業はやって当然、遊ぶ為の休暇などもってのほか、はっきり意見をいう女の人は煙たがられているし、まわりに気をつかわなければいけないので自分の健康を維持するのはさえ難しいありさま。日本人でありながら、日本の慣習に馴染む事ができぬ「在日日本人」の著者が、精神分析の知識を駆使して、日本社会の問題点をわかりやすく書いた、本当に面白い必読の一冊。お試しあれ。

(Y.T)



Lotus 1-2-3 R4J 操作ハンドブック Windows 対応版 河野春夫著 1994

Lotus 1-2-3 R2.4J ハンディ・マニュアル ロータス研究会著 1994

Visual Basic for Windows リファレンス・ブック 相沢文雄著 1994

ギネスブック—世界記録事典—'94 P. マシューズ編 1993

遠い隣人 近世日露交渉史 ノルベルト・R. アダム著 1993

物語の最後の王 日本古代文学の精神史 武藤武美著 1994

東は東、西は西 文化の考古学 藤本強著 1994

先哲叢談 原念斎 [著] 1994

カント入門講義 「純粹理性批判」読解のために ハンス・ミヒャエル・バウムガルトナー著 1994

現象学と形而上学 ジャン＝リュック・マリオン編 1994

見えるものと見えざるもの モーリス・メルロ＝ポンティ 著 1994

応用心理学講座 4 記号と情報の行動科学 三隅二不二 [ほか] 編集 1994

コペルニクスも変えなかったこと 行動生物学的恋愛論 アンリ・ラボリ著 1994

スーパーセルフ 知られざる内なる力 イアン・ウィルソン著 1994

(図説)アメリカ歴史地図 目で見るアメリカの500年 ロバート・H.フェレル著 1994

藤原行成 黒板伸夫著 1994

日本の情景 ルポルターージュ 8 父よ母よ! 下 斎藤茂男著 1994

(概説)現代政治 その動態と理論 五十嵐仁著 1993

在日韓国・朝鮮人の就職差別と国籍条項 仲原良二著 1993

東京市政と都市計画 明治大正期・東京の政治と行政 中邨章著 1993

国際組織の政治経済学 冷戦後の国際関係の枠組み 大芝亮著 1994

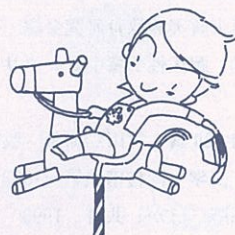
人権論考 今村成和著 1994

消費者重視の経済学 規制緩和はなぜ必要か 伊藤隆敏著 1992

引き裂かれた忠誠心 第二次世界大戦中のカナダ人と日本人 飯野正子 [ほか] 著 1994

思考の技術 あいまい環境下の経営意志決定 瀬尾美巳子 著 1994

両から円へ 幕末・明治前期貨幣問題研究 山本有造著 1994



## 第20回 図書展示会

展示会場：図書館1F自由閲覧室展示コーナー (期間：平成6年6月13日～9月30日)

今回のテーマ：

「古文書でみる日本経済思想400年史(江戸時代～現在)」展  
～本学、北駕文庫所蔵古文書より～

○江戸時代の経済概念 ○江戸時代の重要経済書：熊沢萬山「集義和書」(1676)／宮崎安貞「農業全書」(1697)／貝原益軒「格物余話」(?)／上河某「商人夜話」(1727)／太宰春台「経済録」(1729)／新井白石「本朝宝貨事略」(1774)／近藤正斎(重蔵)「金銀図録」(1810) 外16点 ○維新後の西洋経済思想の移入：スマイルス「西国立志編」外19点 ○日本近代経済学の成立：リスト「李氏経済論」外5点 ○明治後期の経済書：シェーンベルヒ「国家経済論」外11点 ○大正以降～現在の経済書：山崎覚次郎「経済原論」～田中角栄「日本列島改造論」外27点。



## 郷に入っては……

## 二 通 信 子

数年前の年末、我が家に小さな小包が届いた。当時私のクラスで日本語を学んでいたイランの研究員の方からで、ペルシャの手描きのテーブルクロスに一通の封筒が添えられてあった。周囲にぐるりと房のついた豪華なクロスを眺めながら何気なく封筒を開いた私は、これは困ったことになったと思った。中から祝儀袋が出てきたのだ。

冬休み前の最後の授業のときに住所を教えてくださいと言われてメモを渡したが、まさかこんなことまでとは。とにかく中を改めようとのぞいてみると、手紙が一枚だけ。手紙には新年を迎える挨拶とテーブルクロスの洗濯の注意が英文で書かれてあった。一瞬私の頭は混乱した。……多分贈り主はこの「特別の袋」の使い方を勘違いしたのだろう。おめでたい新年の挨拶だから、日本人がお祝いのときに使っているあの華やかな袋こそふさわしいと思ったのかもしれない。ホッとするとともに、先ほどまでの自分の慌てぶりが可笑しくて一人で笑ってしまった。

この素敵で刺激的なプレゼントをくれたSさんはイランの北部にある大学の先生で、北大の工学部の研究員として家族とともに来日していた。滞在期間はわずか一年余りだったが、研究生活のかたわら、学内の一般外国人のためのクラスで日本語を勉強していた。彫りの深い顔に髭がよく似合う、穏やかで気さくな人だった。

Sさんは私にとっては大変有り難い生徒だった。授業中、もう少し説明が必要かなと思うとき、ちょうどよいタイミングで的確な質問を出してくれる。また授業の後「今日は楽しかった」とか、「あの説明はよくわかった」とか、「今日の会話はとても役に立つ」とか一言感想を言ってくれる。もちろんまだ日本語は習い始めたばかりで、英語での会話が多かったが、さらに前に学習した会話を外で試してその結果を教室で報告してくれる。そんなSさんの生き生きとした反応が私には随分勉強になった。そして教師として自分がSさん達

学生に育てられているような気持さえた。

日常生活でもSさんは日本人の生活を偏見のない素直な目で眺め、面白い発見をしては私に話してくれた。例えば日本人が宴会でお互いに酒をついだりつがれたりしていることに、いたく心を惹かれたという。イスラムの国から来たSさんは酒を飲まない。でもテレビや宴会などでそうした場面を見て、これは素晴らしいコミュニケーションの形だと思ったという。確かに何も話さなくても「さあ、どうぞ」とビールを注ぐそのほんの2、3秒に、言葉にはならないものが相手との間に交わされているのかもしれない。Sさんの発見は私にも新鮮だった。

Sさんの帰国の前、お宅に呼ばれて奥様手作りのイランの料理を御馳走になった。息子さんの保育園の先生方も一緒だった。話題は食べ物ことからイランの人々の暮らしや宗教のことに広がっていった。イスラムの一部の人が唱えている厳しい戒律が人々の自由な息吹を奪ってしまうことや、他の文化や生活習慣を持つ人々に対して閉鎖的になってしまうことをSさんは残念がっていた。そしてイランの中にもいろいろな考え方があることを知ってほしいと言った。そのほかにもイランの男性の髭の形とイスラム教の宗派との関係など面白い話もたくさん聞かせてくれた。

初めてクラスで会ったときに「同じアジアの国だから」と日本への親しみを語ったSさんの言葉は、決して社交辞令ではなかった。短い滞在期間のことを考えれば、研究だけなら多分英語で用は足りたことだろう。しかしSさんは日本の言葉を学び、日本人に話しかけ、偏見のない自由な目と自分自身の感性で日本を理解しようとしていた。そして時には面白い失敗をしながら、いともしなやかに「郷に入っては郷に従え」を実践していた。そんなSさんに日本はどれだけ豊かにその素顔を見せることができたのだろうか。

(につう のぶこ 教養部講師)



# ハルマゲドンの戦い——幻想と現実

大江 敏 美

この地上の世界に終末が来るのかどうか、古今東西を問わず論じられてきている。キリスト教では「千年王国」と「終末」の預言が新約聖書第27編ヨハネ黙示録にある。地球そのものの物理的終末は太陽爆発によるもので、40億年後という説が強い。宇宙は200億年前、時間のない静止状態からBig Banで爆発、膨脹し始めたという。黙示録の終末とは、この無時間の静止状態にある理想の世界、いわゆる「新しいエルサレム」が実現することをいう。それはキリスト、使徒、殉教者、義人、額(ひたい)に神の名が記された者だけが住む聖なる都である(サタンも死神も火と硫黄の池に投げ込まれている)。この終末の前に千年間の王国が存在する。その王国を樹立するために、大戦争がハルマゲドンで繰り上げられる(黙示録第16章)。勝利者は王者として再来したイエス・キリストである。

この土地は、イスラエル北部のエズレル平野にあるMegiddoである。Har(ハル)とは山、丘で、nは語尾に付く定冠詞、通して読むとHarmageddonとなる。メギドは古代中東世界最大の戦略拠点であった。3超大国エジプト王国、メソポタミヤ平野のアッシリヤ王国、ローマ帝国をつなぐ街道の中間点にあり、ここを占領することにより相手国を支配できるため紀元前4千年前から何回も激戦が戦われた。勝利者はその都度前支配者の城塞を取り壊し、自分の城塞を築いた結果、丘のように盛り上がったものである。

現在イスラエルの発掘調査でここには20層の城塞跡が見つまっている。黙示録の筆者ヨハネは当時の世界の最大の古戦場としてのメギドを覚えており、世界の終わりの戦争がこの地で行われるとしたものであろう。この発掘地は国立遺跡公園として公開されているがなかでも注目されるのが地下湧水の水道である。眼下には肥沃なエズレル(神が種を播くというヘブライ語)平野が広がっている。

千年王国にせよ、新しいエルサレムにせよ、そこに復活できるためには額に神の名が記されていなければならない。どうすればその有資格者とな

れるのか黙示録には明示されていない。それはさておき、イスラエルには、同じ啓典の民であるユダヤ教徒、キリスト教徒、イスラエル教徒が平和裡に、あるいは紛争状態でそれぞれの終末思想をもって共存している。イスラエルの総人口は530万人、そのうち100万人がアラブ系(75万人はイスラム教徒、25万人がキリスト教徒ほか)である。アラブ系キリスト教徒のなかには国会議員もいるし、市長もいる。マリアがキリストの懐胎を天使に告げられた町ナザレ、また彼が幼少年時代から青年時代を過ごしたこの町は、メギドとはエズレル平野を挟んだ東北方の山地にある。ナザレは今では市となっており、市民にはアラブ系のキリスト教信者が多く、もちろん市長もそうである。イスラエル全体のユダヤ人430万人の10%はゴルバチョフのペレストロイカ時代以後の旧ソヴィエトからの帰還者である。

第2次大戦とそれに続く冷たい戦争、熱い紛争、生物種の絶滅、オゾンホールが発生などでヨハネの黙示録に描かれた地球の終末を連想し、そうならないと真剣に憂慮する人々が今日の世界各地にでてきている。旧約聖書の時代にも、新約聖書、アル・クルアーン(誤ってコーランと訳されている)の時代にも最後の審判は重大テーマであった。下記のvideo作品は、人類の創成、ユダヤ人、キリスト教信者の苦難、勇気、忍耐心などへの洞察を与えてくれるであろう。

おりしもイスラエルの2地区での、暫定自治がやっと進行し始め、パレスチナ住民も前途への希望をもち始めて来た。日本も含む世界各国からの経済支援も公約されており、水道、電気、住宅、学校など生活基盤の早急な整備が待たれる。

大学図書館所蔵の関連 video cassettes:

聖書の世界 旧約聖書編 4巻 (各30分)

聖書の世界 新約聖書編 2巻 (各30分)

屋根の上のヴァイオリン弾き (3時間)

十戒 (4時間)

(おおえ としみ 教養部教授)



## 運命を忘れさせた

# 田園のユーモア

運命も時にはユーモアに会う。

1812年夏、天才たちはそれぞれの領分にいる。43歳のナポレオンは遠くロシアの森に。63歳のゲーテはボヘミアの温泉場に。

春から夏、ゲーテは冬に痛めつけられた体をいやすために、カルルスバートを訪れることを常とした。Badバートとは英語のbath、つまり「温泉」ということだろう。ヨーロッパの人々にとって、温泉とは「入浴」するだけでなく「飲む」ものなのだ。

その年の7月。カルルスバートに近いテプリツの温泉場にもう一人の天才が耳の治療で滞在していた。ベートーベン41歳。

ここで偶然にもこの2人が出会うことになる。ゲーテは大公に呼ばれてテプリツへ移っていたからだ。

7月19日夜。ゲーテ、ベートーベンを訪問。ピアノ演奏。

7月20日。近くの村へ2人で車行。

7月21日夜。ゲーテ、ベートーベン訪問、ピアノ演奏。

7月23日夜。ゲーテ、ベートーベン訪問。

ここまではどうと言うことはない。ところが、その直後のある日、ユーモラスな出来事が2人の間を引き裂くことになる。

「え？ なんですって！ じゃあゲーテはあなたをワイマールから追い出したんですね！」。

着いて間もなくの若い婦人の筆記を読み取りながら、ベートーベンは大声で言った。

「そうですとも、あの方ときたら、あんな教養の

ベ ー ト ー ベ ン	②	ゲ ー テ こ と ほ ぎ や ま ず	す み れ 想 い 野 バ ラ 愛 し
----------------------------	---	--	--

ない花屋の娘と結婚するなんて！」。

相手の若い婦人の言葉は酒神の燃える炎に油を注いだ。

「全くだ、あの偉人は俗物にすぎる。カルルスバートではナポレオンのフランス妃に詩を献げ、ここテプリツではオーストリア妃にペコ〜するとは！」。

彼は散歩途上で見たゲーテの奇妙でユーモラスな「最敬礼」の一件を物語った。

話し相手の婦人こそ、27歳になるドイツ・ロマン派の詩人、ベッティーナ・アルニム（旧姓プレントナー）であった。彼女はゲーテにベートーベンの天才を知らしめた女性だった。兄プレントナーは、夫アルニムと共にドイツ民謡集『少年の魔法の角笛』の作者として、グリム兄弟にも影響を与えたのだ。彼女はゲーテ同様フランクフルトの富裕な家庭の出で、彼女の母はかつてのゲーテの恋人。

酒神の哄笑は文豪を沈黙させずにはいない。その音楽は彼にとっては雷鳴のようだったろう。ベートーベンがのちにゲーテを頼った時、彼はベートーベンを無視したのだ。にもかかわらず、美の世界にあっては彼らは互いに相手を必要としたのだった。

ゲーテがワイマールに戻った9月中旬、モスクワ炎上。ベートーベンはひと夏のユーモアに満ちた交響曲「第八番」を作曲。12月。ナポレオン敗走。彼こそはあのロスチャイルド家の手の上で踊っていたのではなかったか。

(M・K)

## 知求の泉としてのカルルスバート

—『マルクス・エンゲルス書簡集』より

ゲーテが飲み、ベートーベンが飲んだ鉱泉を1812年から62年後の1874年夏、マルクスはロンドンから大陸を横断してカルルスバートに来て飲む。エンゲルスあての書簡は当時の温泉地の一端を垣間見せてくれる。「鉱泉は興奮させる」「肝臓は1年分良く」なり、「ビールは禁じられ」ており、夜は散歩、音楽会、そして図書室での読書。マルクスは1875と76年にも訪れては「知求の泉」を飲んだ。



## 4 技能の同時強化：会話と英作文

小林 敏彦

外国語としての英語運用力は、読む(reading)、書く(writing)、聴く(listening)、話し(speaking)の四つの技能(four skills)に分けられ、常に四大栄養素：蛋白質(protein)、炭水化物(carbohydrates)、脂肪(fat)、ビタミン(vitamin)のバランスが大切であるように英語力もバランスのとれた習熟が望ましい。これらの4技能はお互いに深い係わりをもった総合体(synthesis)のようなものである。

まずこれらの4つの技能は、スピーキングとリスニングの話し言葉(spoken language)とライティングとリーディングの書き言葉(written language)に分けられる。更にこれらの4技能は自分が実際その言葉を発する側であるか、それとも誰か他人が発した言葉を受け取る側であるかによって、スピーキングとライティングの発信型技能(productive skills)とリスニングとリーディングの受信型技能(receptive skills)に分類される。一般的な日本人の英語のSLAとは対照的に、人が母国語(mother tongue)を覚える時は話し言葉を先に覚え、四技能で言えば、リスニング→スピーキング→リーディング→ライティングの順で習得され、感覚器で言えば、耳→口→目→手の順番になる。これらの4つの技能は独立して上達していくのではなく、お互いに関連しながら、特に同じ型の技能間では補強しながら発達していく。

スピーキングとライティングは深い関係にある。二つの技能のプロセスは非常に似ており、スピーキングは口頭英作文(oral composition)とみなすことが可能である。英作文の練習をしていれば、スピーキングが補強される。両者は適切な単語を選び、文を組立て、自分の考えを英語で表現するプロセスに他ならず、ライティングは表現のための時間が十分与えられているのに対して、ス

ピーキングは時間の余裕があまりなく、またその場面の環境、たとえば場所、話す相手、体調などの影響を受けやすい。

またライティングは形に残り、自ら修正したり自己批判することでより正確なものに仕上がることが要求されるが、スピーキングは時間的制限や瞬時に発した言葉が消え失せるという安心感からか、正確さと言う点で、エラーがより多く現われやすい。しかしスピーキングはライティングの場合と違い、話し手の顔の表情、身振り、手振りなどの聞き手からのフィードバック(feedback=応答や反応)によって発言の修正や言い直し、繰り返しなどが可能で、不正確さ(inaccuracy)を補うことができる。コミュニケーションをしている最中に対話者からフィードバックが返ってくる点がスピーキングの重要な特徴である。

このように、スピーキングとライティングの間には様々な違いはあるものの、学習においては、両者の類似している側面を大いに活用すべきである。具体的な英作文から英会話への移行には、2～3分程度のスピーチの原稿を書いて音読し、丸暗記し、暗唱する練習を重ねること。これを実際の会話の場面で部分的でもいいから取り出してみるといい。一週間に自分の関心のあるトピックを一つ選び原稿を書く。これをネイティブの先生(丁寧に依頼し研究室にはアポを取ってから行くこと)や知人に添削してもらい、更にできれば他人の目の前で暗唱して発音、イントネーション、デリバリー、内容についてコメントしてもらおう。この際に応対を全て英語でできれば、読解を除いた複数の技能を同時に鍛える機会を得ることになる。次回は聴解力と読解力のSLAについて説明する。

(こばやし としひこ 人文学部講師)